

会員の広場



高齢者の自動車運転

矢野 恒太郎（東京）

高齢者の自動車運転の是非が社会問題化している。高速道路を逆走した、通学児童の列に乱入した、ブレーキとアクセルを踏み間違えてコンビニに突入したなど高齢者の事故報道が多い。そして、高齢に達した場合、すみやかに運転免許証を返納すべきであり、返納

されるとそれが美談として伝えられている。このようなかで私は昨年4月、八一歳の誕生日に運転免許証三年間の更新をした。理由は従来通りの日常の活動範囲を維持し、制約のない活動を続けたからだ。たとえば、各種レジャー、スポーツ、買い物、通院等には車の利便性は大きで、これが日常生活に活気をもたらしている。この場合、安全運転に必要なことは「判断力」と「注意力」で、これらの力は健康な体力から生まれてくると思う。このために私は運動を重視しており、テニスは週2〜3回、ゴルフは月に2〜3回、毎日、ラジオ体操と散歩約7〜8千歩を実行している。そのためか、目下、体調維持には特に不安はない。しかし一方では加齢に伴い心

身の機能が低下してゆくことは個人差があるものの、誰にも訪れる。衰えをカバーするため私が留意している運転は次のことである。

○安全なスピードで走る―商店街や住宅街にはスピード標識が設置されている。これを守ると、ゆったりと余裕を持って走れるので道路状況がよくわかる。○脇見運転をしない―交通状況は常に変化する。一瞬の脇見で危険を見逃すことがある。○一時停止や信号遵守を確実に行う―一時停止標識を見逃さず確実に停止する。また、信号には歩行者用と自動車用を併用しているものがあるので、歩行者の横断中には十分注意する。○最新の車両技術の活用―安全技術開発の成果を注視し、活用を図る。○運転免許証の返納―加齢

に伴い誰も心身機能は低下し、安全運転が困難になる。その変化を敏感に認知しすみやかに免許証を返納する。

私は平成13年6月に現役を引退し、同年7月に当経済倶楽部に入会し、今日迄16年間お世話になっていて。この間毎週、各界のトップ講師が最新の政治、経済、文化等の動向についてお話し頂き、大いに知的刺激を受けている。また、永年の友人と再会ができ、講演会後はコーヒィや酒を酌み交わし、楽しいひとときを過ごしている。このような講演会や会話は心身の健康を促進する。これからも講演会にまじめに出席し、友人と遊び、体力向上を図って、四十数年間継続中の無事故無違反運転をさらに更新したい。